

立命館大学アート・リサーチセンター
 文部科学省 国際共同利用・共同研究拠点
 「日本文化資源デジタル・アーカイブ研究拠点」
 2019年度 国際共同研究成果報告書〔研究設備・資源活用型〕

2020年4月13日提出

1. 研究課題名	
近代木版口絵のデジタル研究環境基盤整備 (英文標記: Infrastructure Development of Digital Research Environment for Modern Woodblock-printed <i>Kuchie</i> (Frontispieces))	
2. 研究代表者	
氏名(ふりがな)	所属機関・職名
朝日 智雄(あさひ・ともお)	口絵研究者
3. 研究分担者 (合計: 2名)	
氏名(ふりがな)	所属機関・職名
赤間 亮(あかま・りょう)	立命館大学・教授
常木 佳奈(つねき・かな)	立命館大学大学院・博士課程後期課程 日本学術振興会特別研究員(DC) ※以上、2019年度の所属
4. 研究課題の概要(300字程度) (申請書から変更がある場合は、変更点が分かるように明記してください)	
<p>本研究は、口絵のイメージデータベースおよび総合データベースを構築し、同資料のデジタル研究環境基盤整備に取り組むものである。明治中期から末期にかけてのある特定分野の書物には、高確率で木版多色摺口絵を確認することができる。これらは同時代の出版や読書文化を窺い知ることができる貴重な資源であるにも関わらず、その形態的特性ゆえの扱いづらさから、いずれの研究分野からも敬遠されてきた。以上の背景を踏まえ、本研究は、近代木版口絵の最大級コレクション・朝日コレクションを中心に他機関所蔵資料についてもイメージデータベースとして公開し、その学術的価値の再検討を通じて、同資料を人文学研究の俎上に載せることを目的とする。今年度は昨年度に引き続き、研究代表者が蒐集した作品のうち、冊子体裁のものイメージデータベース化と、総合データベースを作成することに取り組む。</p>	
5. 研究成果の概要 (この項は、本センターのホームページ・紀要等で公開することがあります)	
<p>2019年度は、研究代表者が所蔵する口絵関連資料のうち、書籍に挿し込まれた状態のままの口絵約400点などのデジタル化を実施した。デジタル撮影にあたっては、所蔵先から資料を借用し、立命館大学アート・リサーチセンター内で撮影を行った。</p> <p>また、2018年度にデジタル化を完了した約3,000点の口絵および関連資料については、データベース上の公開範囲を制限付きから一部を除いて制限なし公開へと移行し、現在、広く活用されている。特に、国内の美術館において展覧会準備に活用されるなど、外部からの利用報告も受けており、一般公開して間もないが、データベースの存在が着実に周知されていることを実感する。メタデータに関しても、研究代表者がこれまでに蓄積してきたデータを流用し、必要最低限の仕組みが整った。</p> <p>総合データベースについては2019年度中も着手することができなかったので、今後の課題としたい。</p>	

6. 研究業績 (日本語以外に英語名称もあるものは、できるだけ日英両言語でご記入ください)

(1) 著書

なし

(2) 論文

Tsuneki Kana. (2020). Japanese Literature and Art: Building the Digital Archive of Woodblock *Kuchi-e* Prints and Its Impact, *Art Research* (Special issue), pp.123-127, Kyoto: Japan.

(3) 研究発表等

Tsuneki Kana. Japanese Literature and Art: Building the Digital Archive of Woodblock *Kuchi-e* Prints and Its Impact. "Landscape in Art, Film and Theatre and New Media", *Art Research Center, Ritsumeikan University, Kyoto, Japan*, June 1st, 2019.

常木佳奈「近代木版口絵の資料」(第 61 回 ARC セミナー, 京都・立命館大学アート・リサーチセンター, 2019/07/10)

常木佳奈「文学作品と絵画: 近代木版口絵の制作に携わった人びととその関係」(2019 年度第 2 回(通算第 107 回)日本出版学会関西支部会, 大阪・大阪市立大学学術情報総合センター, 2019/07/13)

常木佳奈「書物のく装い」: 江戸から現代までの文学関連書を事例に」(New Frontiers in Japanese Digital Humanities: A Collaborative Workshop, "Transcribing Japanese Cursive Texts from the Edo Period", 米国・カリフォルニア大学バークレー校, 2019/09/11)

常木佳奈「小説を離れた口絵: 春陽堂『江戸錦』を事例に」(2019 東アジア次世代フォーラム, 韓国・高麗大学, 2020/02/21) ※※新型コロナウイルス感染者拡大により開催中止。要旨集発行にて代替。

(4) 主催したシンポジウム・研究会等

なし

(5) その他研究活動(報道発表や講演会等)

なし

(6) 受賞学術賞

なし

(7) 科学研究費助成事業

常木佳奈「明治期文芸書の(装い)に関する研究——木版口絵を中心に——」(特別研究員奨励費, 2018/04/25-2020/03/31, 代表)

(8) 競争的資金等(科研費を除く)

なし

(9) その他

【WEB メディア】

常木佳奈「春陽堂と近代木版口絵: 第 1 回春陽堂の明治期木版出版物」(春陽堂メディアサイト, <https://www.shunyodo.co.jp/blog/2019/05/mokuhan01/>, 2019. 5.22)

常木佳奈「春陽堂と近代木版口絵: 第 2 回近代木版口絵の盛衰(1)」(春陽堂メディアサイト, <https://www.shunyodo.co.jp/blog/2019/06/mokuhan02/>, 2019. 6.21)

常木佳奈「春陽堂と近代木版口絵: 第 3 回近代木版口絵の盛衰(2)」(春陽堂メディアサイト, <https://www.shunyodo.co.jp/blog/2019/07/mokuhan03/>, 2019. 7.22)

常木佳奈「近代木版口絵と春陽堂: 第 4 回近代木版口絵の制作(1)」(春陽堂メディアサイト, <https://www.shunyodo.co.jp/blog/2019/08/mokuhan04/>, 2019. 8.20)

常木佳奈「近代木版口絵と春陽堂: 第 5 回近代木版口絵の制作(2)」(春陽堂メディアサイト, <https://www.shunyodo.co.jp/blog/2019/09/mokuhan05/>, 2019. 9.20)

【展覧会】

展覧会: 赤間亮・金子貴昭・常木佳奈(企画)「ちよつとマニアな版画展(含: デジタル展示)」(立命館大学アート・リサーチセンター, 2019/06/24-2019/07/12)

【事典】

常木佳奈「書物学(近代)」(村上征勝(監修)『文化情報学事典』勉誠出版, 2019)

【データベース】

データベース: 「朝日コレクション 口絵データベース」(http://www.dh-jac.net/db/nishikie/search_tasahi.php)